



Weekly Report

Total 1726th

2023-24

28

2023-24 年度 会長テーマ 『温故知新』

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30
例会場 ヒルトン名古屋
事務局 名古屋市中区栄二丁目 4-11
チサンマンション広小路906号
TEL (052)201-1141
FAX (052)201-5679
E-Mail t-jrc@ceres.ocn.ne.jp
会長 山田 恭敬
幹事 奥村 一憲

環境月間

2024.4.2

本日の例会・花見例会（名古屋城例会）



会長挨拶 山田 恭敬 会長
幹事報告 奥村 一憲 幹事
米山記念奨学生来会 タンナミ マガル モハン さん（日本福祉大学 国際福祉開発学部）
ポール・ハリス・フェロー誕生 山田 恭敬 君（PHF+1）
外来卓話 辻 正敏 様 第2630地区 津ロータリークラブ所属
2019-20年度ガバナー /2023-24年度第2地域 ARC

幹事報告

日時	行事内容	開催場所／参加者
4月6日(土) 16:30 受付	春日井ロータリークラブ 創立55周年記念式典 17:30~18:45 式典/19:00~19:30 祝宴	ホテルプラザ勝川 2F さくらの間 津坂ガバナー補佐、小塚分区幹事、山田会長、奥村幹事
4月7日(日) 10:45~受付	2024-25年度 地区研修・協議会 10:45~12:00 昼食(各分科室)/12:30~17:00 本会議・分科会	名古屋マリオットアソシアホテル 登録会員各位
4月11日(木) 10:45~受付	2024 学年度米山オリエンテーション 13:30~16:30	ホテルメルパルク名古屋 永岡智亨 次期米山奨学副委員長
4月16日(火) 12:30~13:30	第4回 クラブ協議会	ヒルトン名古屋 4F 竹園の間 会員各位
4月16日(火) 例会終了後	第9回 理事役員会	ヒルトン名古屋 4F 杉の間 理事役員各位
4月23日(火) 12:30~13:30	通常例会	ヒルトン名古屋 28F ワンオーファイブ 会員各位

4月9日(火)は、4月7日(日)2024-25年度 地区研修・協議会へ変更のため、例会はありません。
4月30日(火)は同週祝日振替休日のため、例会はありません。
4月9日(火)から12(金)は、事務局 石山はテレワーク対応です。

2024.4.7 次回例会 2024-25年度 地区研修・協議会

2024.4.16 次々回例会 第4回クラブ協議会

会長挨拶 山田 恭敬 会長
幹事報告 奥村 一憲 幹事
結婚記念日御祝 馬場 博通 君(7日)、岩田 佳之 君(9日)
塚本 新 君(11日)、秦野 滋 君(11日) ※ 祝福卓話は5月に実施します
第4回 クラブ協議会 ※ロータリー章典に則り会員全員で開催します

会長挨拶

山田 恭敬 会長

皆さんこんにちは。名古屋城北ロータリークラブ会長の山田でございます。

本日は8月以来、久しぶりの3RC合同の例会でございます。かなり緊張しております。

まずは2月25日に開催をさせていただきましたIMに多数のご参加を頂きまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。お陰を持ちまして、手前味噌ではありますが大過なく成功裏に終えることが出来たと確信しております。本当にありがとうございました。私たちは続きまして、5月開催のRFFへと向かっております。

待ったなしの連続の中でクラブ運営・クラブ活動が続いております。

さて本日は春日丘高校IAC（インターアクトクラブ）の活動報告の日でございます。河合会長はじめ4名の生徒さんにご参加を頂き、今年度のIACの活動を報告していただきます。

春日丘IACは皆さんご存じの通り、活動日数、活動範囲等他校に比べ群を抜いた活動を続けておいでです。特に自然災害に対する募金活動を始めるスピード感はロータリークラブも学ばなければならないと感じました。更にボランティア活動でありながらも地域を巻き込みながら着実に成果を出してこれ、心から感服いたします。またその活動を通しNPO法人の設立と留まることを知らないご活躍です。

私達ロータリークラブが今後どの様に関わっていくのかを今一度真剣に考えなければ、置いてきぼりを食ってしまうかもしれません。

本日この例会後に3RC合同のIAC連絡協議会が開催される予定でございます。その場におきましても生徒さん達に負けないように議論を進めていければと思います。

どうぞよろしく願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



会長挨拶

春日井ロータリークラブ 古屋 義夫会長

皆様こんにちは。

私たち春日井ロータリークラブは今年度、創立55周年を迎えさせていただきます。

そしてきたる4/6に春日井ロータリークラブ創立55周年記念式典と祝賀会をホテルプラザ勝川にて開催させていただくことになりました。

3RCの皆様にはいろいろとお世話になりますがどうぞよろしく願い申し上げます。

そしてまた5月には姉妹ロータリークラブであるセブロータリークラブにご協力をいただき”私のあしながおじさん”という文学作品と同様の事業を実行してまいります。

優秀だけど貧しくて学校に行けない物語の主人公、“ジュディアボット”みたいな子供達を3年間サポートするとても有意義な国際事業です。

この事業は2013-14年度から開始されましたが残念ながら2017-20年度でコロナ禍の影響もあり中断いたしました。今年度2023-24年度より再開をはたせそうです。



今年度は春日井ロータリークラブからセブに18名という大人数にて遠征してまいります。
 また現時点では確定事項ではありませんが6月には会員の皆様との親睦旅行も企画していただいていると聞いておりますのでメンバーの皆さんと親睦旅行に行けるかもしれませんね。
 非常に楽しみにしております。

今年度もあと3ヶ月位を残すのみとなりましたが春日井ロータリークラブは最後までメンバーの皆様と共にEnjoy Rotaryを邁進して参りたいと考えますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します

会長挨拶

名古屋空港ロータリークラブ 阿萬 裕子会長

皆さんこんにちは。
 名古屋城北ロータリークラブの皆様には設営いただきありがとうございます。
 どうございます。

また、IMでもお世話になりありがとうございました。
 名古屋空港ロータリークラブの活動の1つとして、3月21日（木）に豊山町内の小学1年生へ防犯ブザーの贈呈を行いました。この行事は金井パスト会長年度の平成18年度から継続している事業です。

平成18年度は新就学児童と持っていない小学生に400個を寄贈致しました。

昨年は189個、今年度は162個の寄贈となり、年々数が減少しており少子化を実感しています。

本日は元気いっぱいの将来を担う中部大学春日丘高等学校インターアクトクラブの生徒さんにお越し頂いています。これからも応援させて頂きたいと思っております。

さて、5月17日（金）は当クラブ主幹で3RC現・次理事役員会をマリオットアソシアで開催致しますのでご対象の方は奮ってのご参加をお願い致します。

また、10月7日（月）には50周年記念式典を開催させていただく予定としております。本日も宜しくお願い致します。



幹事報告

奥村 一憲 幹事

ビジター紹介

碓谷将紀 親睦活動委員長



名古屋名駅ロータリークラブ 石黒隆 様
 米山記念奨学生 タンナミ マガル モハン さん（日本福祉大学 国際福祉開発学部）
 中部大学春日丘高等学校 2年会長 川合 杏奈 さん、2年副会長 市山 鈴空 さん
 1年 宮地 花歩 さん、1年 高木 玲花 さん

出席報告

本日の例会				3月5日（前々週）の例会		
会員数	出席数	欠席数 (内免除者)	出席率	Make up	欠席数 (内免除者)	出席率
28	20	8(4)	87.5%	1	7	95.65%

ニコニコボックス報告

永岡 智亨 ニコニコボックス委員

-  久しぶりの3RC 合同例会です。宜しくお願いいたします。 山田 会長
-  3RC 連絡協議会。宜しくお願いいたします。 奥村一 君

😊	孫が全国中学硬式野球大会出場しましたが、初戦負けました。	小塚 君
😊	IAC の活発な活動を祝し。	秦野 君
😊	3RC 合同例会出席を出来た。喜んで！	今田 君
😊	春日井 RC、空港 RC の皆様今日は宜しくお願いします。	奥村勝 君
😊	最後の東北研修頑張って下さい。	舟橋 君
😊	春日井 RC、名古屋空港 RC の皆様、ようこそ！	岩田 君
😊	春日井 RC、名古屋空港 RC の皆様、ようこそ。そしてインターアクトの川合会長始め皆様ご苦労様です。	太田 君
😊	今日も元気で。	小原 君
😊	★今日も元気で出席できた喜びで…	
😊	服部 君、碓谷 君、花井 君、長谷川 君、津坂 君、穂積 君、馬場 君、鈴木岳 君、早瀬 君、竹内 君	

米山記念奨学金授与



インターアクトクラブ活動報告



【川合 杏奈さん】

みなさんこんにちは！中部大学春日丘高校インターアクトクラブ会長のあんなと、副会長のりんくと、1年れいかと、同じく1年のかほです。

私たちは「[目の前の人を笑顔に！]」をモットーの、部員数は約70名、年間のボランティア活動数はなんと約300回という東海地区で最大規模のボランティア団体です。赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで、障がいのある人も無い人も、すべての人を対象としたボランティアを地元(春日井市)の児童施設や高齢者施設、医療施設で行っています。

そこでは、利用者さんと一緒に手遊びや体遊びをしたり、レクリエーションを企

画したりすることもあります。

また、地域のイベントでは、運営のお手伝い、ダンスパフォーマンスやゲームコーナー、物品販売を行っています。ダンスステージは、見て楽しんでもらうだけでなく、ジャンボリミッキーやYMCAなど、みなさんと一緒に踊って盛り上がることもあるんですよ！物品販売では、東日本大震災の被災農家さんを支援する[はちみつや桑茶]、障害者支援商品の[クッキーやフィナンシェ]などの販売をしています。

【市山 鈴空さん】

福祉施設での活動は最近やっと再開してきていますが、新型コロナウイルスの影響で、活動がほとんど無くなってしまふ時期がありました。そんな中で自分たちがそれまでの活動で得た経験を生かし、何かできることはないかと考え、無料塾の運営や障がい者旅行

支援などの新しい活動が始まりました。

中でも、僕たちが特に力を入れているのが、オリジナルの無料塾[みんなのひみつきち]です。この無料塾は自分たちでゼロから創り上げました。子供たちにひみつきちにいる時みたいにわくわくした笑顔になってほしいというコンセプトでこの名前を付け、自ら広報活動も行い、2021年9月に開校しました。主に小中学生を対象とした学習支援を、僕たち高校生が行なっているため、講師と生徒の距離が近いということが特徴です。

私たちは全ての子どもたちが通いやすい無料塾を目標にしている、学習障がいのある生徒さんも、学校に通うことが難しい生徒さんも毎週楽しみに来てくれるよう、工夫をしています。この無料塾では、ただ勉強だけをするだけではありません。

月に一度、工作教室や料理教室を行ったり、[ハロウィンやクリスマス、バレンタイン]などなど、季節の行事にちなんだイベントを開催したりしています。全ての生徒に楽しんでもらうために、毎回試行錯誤し、創意工夫をこらしています。

また、一昨年から、地元の大型ショッピングモール内の[無印良品]店内でも、毎月第一日曜日の午後、ひみつきちを開催しています。ここでも子供たちが楽しめるような工作教室やゲームイベントをしています。店内放送を使わせていただいたり、チラシを配ったりして、ひみつきちや私たちについて知ってもらえるよう広報活動も行っています。このような活動を通して、ひみつきちでは少しずつ生徒の人数が増えています。

しかし、順調に規模を拡大していく中で、新たな課題が出てきました。学習支援はこの先ずっと続けていくべき活動ですが、私たちは高校生の部活動として運営しているために、もし何か起こって部活動がなくなってしまう場合、同時に無料塾もなくなってしまうのです。そこで、愛知県内初、全国的にも珍しい、理事が高校生のみ、NPO法人[みんなのひみつきち]を立ち上げました。これによって継続的な学習支援が可能になり、社会的信頼も得られると共に、知名度も向上、より幅広いより良い学習支援のための可能性を広げました。このNPO法人は、昨年10月に愛知県内のNPO法人の活動を発表するNPOアワードに出場し、たくさんの方に認めていただき、準グランプリを受賞させていただきました。

【宮地 花歩さん】

また、障がい者の旅行支援をするパラクティブツアーも開催しています。[パラクティブ]というのは、パラリンピックでお馴染みの並んで立つという意味を持つ[パラ]と、活動的という意味の[アクティブ]を組み合わせた造語です。障がい者の家庭では、保護者の負担が大きくなってしまったため、なかなか旅行をすることが難しいと聞き、すべての人が旅行できる社会を目標に企画しました。第一回は昨年の3月、一泊二日で白川村と高山へ行きました。障がい者とそのご家族に高校生が1人ずつ付いて、車いすを押したり、障がい者に付いて回ったり、ご家族の負担を減らし、全員に楽しんでもらえるように頑張りました。普段の活動とは違い、二日間ずっと一緒に過ごす中で、小さな段差や割れ物のあるお店、狭いトイレなど、いつもだと分からない苦労に気がつきました。特に食事では、保護者さんが障がい者に食べさせなければならない場合、それを優先して、保護者さんは時間が経って冷めたものを食べていて、とても歯痒く感じました。しかしホテルや白川村の協力のもと、参加者全員に楽しんでいただくことができ、私たちもとても嬉しかったです。旅行のあと、参加者から頂いたメッセージをご紹介します。「娘と2人で初めて旅行に行った。2人だけだったら娘から目を離すことが出来ないため、難しい。高校生が手を繋いだり、車椅子を押したりしてくれるので、安心してお土産などを見て回れた」

さらに、今年の夏、パラクティブツアーを題材に出場したソーシャルビジネスプロジェクトという大会では、金賞をいただくことも出来ました。去年全国1位に当たる文部科学大臣賞を受賞したので、今年は連覇しないように文部科学大臣賞は選考外だったので、最高賞は金賞なんです。表彰状は去年の文部科学大臣賞の物です。今後はより障がい者が必要としているプラン作りを考えていて、例えば障がい児には不安の多い修学旅行の練習としてのツアーなどを検討しています。

【高木 玲花さん】

2024年2月4日には、春日インター全ての活動がわかる『インターフェス』を開催しました！



このインターフェスは部員総勢 70 名で半年前から準備をしており、開催前にも中日新聞さんに取材をしていただいたり、数百枚ものチラシを配布したりするなど、広報活動にも尽力しました！

また、来場して下さったお客様にただ活動紹介するだけではつまらないと思い、工作教室やゲームコーナーなど、全 11 ブースを設置しました。

さらに、手遊びやダンスステージも行いました。この日もとても盛り上がり、踊っている私たちダンサーも見てくださったお客様もみんな笑顔になりました！このインターフェスは総勢 200 名ほどのお客様に来場していただきました。お客様の中には市議会議員の方や福祉協議会の方、我が校の教頭先生もいらっしやいました！皆さんの中にも来てくださった方がいるかもしれません。お越しいただきありがとうございました！



お客様からこのように会場内設置の掲示板より温かいメッセージや後日 SNS でお褒めの言葉もいただきました！一部紹介したいと思います。

『ブースに参りましたら、高校生のみなさまが積極的に説明をしてくださり、とても好感が持てましたし、社会の色々な方たちとの接点ができ、やがて社会に出られる時にも、大きな経験値になりますね。社会の力になってくださることに、こころより感謝申し上げます』

インターフェスの様子は開催前にも取材していただいた中日新聞さんに掲載されました。

このインターフェスは大成功を収め、インターアクトという部活動の PR、春日丘高校のイメージアップ、来場者の皆様がインターアクトクラブについて知ることができるという 3 点でメリットがあるイベントだったのではないのでしょうか！？

【川合 杏奈さん】

このように私たちは、「目の前の人を笑顔に！」するためにたくさんの活動をしています。

次に、インターアクトクラブの活動を通して私たちが学び、成長したことについて、順に話していきます。

【川合 杏奈さん】

私はインターアクトクラブの活動で、自分の世界を広げることが出来ました。

私は中高一貫のコースに所属していて、毎日特定の友達や先生としか顔を合わせない中学校生活を送っていました。そのため、高校にあがって春日インターに入部し、最初に学んだことは、「先輩に敬語を使う」というとても当たり前のことでした。それから、活動先での話し方や、利用者さんとの接し方など、多くのことを学んできました。

2 年生になってから、会長に指名していただきました。そこで自分の世界を広げ、成長させてくれたインターを後輩たちに繋げたいと強く思うようになりました。しかし、私は自分から率先して何かやる、ということが得意ではありません。それまで、大きな団体のリーダーになったこともほとんどありませんでした。だから私は、強いリーダーシップでみんなを引っ張るのではなく、みんなに寄り添えるリーダーになろうと決めました。周りの人の意見を積極的に聞いて、それを取り入れることを意識しています。

最後に、私たち 2 年生のインターアクトクラブの所属も、残り半年を切りました。私のインター最後の目標は、周りの人への感謝を忘れないことです。私がインターアクトクラブと出会い、活動を通して成長できたのは、いろんな人の支えがあったからだ日々実感しています。私に色々なことを教えてくださった顧問の松本先生や卒業した先輩方、時には私を助け導いてくれる頼もしい同級生や私たちについてきてくれる後輩たち、そして、私たちの活動を支援して下さるロータリークラブの皆様から感謝しています。本当にありがとうございます。

【市山 鈴空さん】

僕もいま話していた会長の杏奈さんと同様に高校生 2 年生で、2 年間インターアクトクラブの部員として活動しています。

今度は僕の方からインターアクトとして活動していく中で学んだこと、成長したことについて二つ話します。

一つは、インターアクトクラブに所属してからは、先ほどの活動紹介にあったように「子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで」「障がいのある人も無い人も」活動先で様々な人と出会い、今までよりもはるかに多くの人と接してきました。

それが「同じ地域社会にはこんな人たちが生活していたんだ！」という発見に繋がりました。

自分たちは個人個人がバラバラに生活しているわけではなく、同じ地域で、今この瞬間も一緒に生活しているんだな、という共同

体的感覚が生まれました。

そして、その人たちが笑顔になるような活動をしたいと思うようになりました。

その具体的にできるようになった行動としては、インターアクトクラブでの活動はもちろん、日常生活の中でも、例えば駅でゴミが落ちていた時に「あっ、これを拾っておいた方が次にここを通った人が心地よいだろうな」と積極的にゴミを拾うようにしたり、コンビニやスーパーの店員さんにも明るく返事をしたりお礼をいったりするようになりました。

もう一つは、気持ちを切り替える力が身につきました。というのは、僕たちは毎回の活動ごとに反省会を開いて、その日の反省点や次の活動のための改善点を話し合うという機会があるのですが、最初のうちは一つ一つの反省を悪い意味で引きずって、落ち込んだり悩んだり、活動の中でも出来ていたことが出来なくなることもありました。しかし、先輩や同じ活動に行った部員から励ましてもらったことによって、活動を重ねるごとに、次の活動でその反省を活かしたいという気持ちの方が強くなり、楽観する訳では無いですが、その日ごとの反省を前向きに捉えることができるようになりました。

人の為に進んで行動できるようになったことと、前向きに物事を捉えることができるようになったこと。インターアクトクラブの活動を通して、自分はポジティブな性格に変わったなと思います。

それは、インターアクトの活動自体が何か。より良い方に進めていこう、というものであるからだと思います。そして、その活動に参加する人たちもまたポジティブな人が多いのだと思います。

「相互の作用する」という意味もあるインターアクト。まさしくその意味通り、いい影響を与えあって成長しあえる、素晴らしい活動だと思います。

【高木 玲花さん】

私はインターアクトクラブに入部してから1年間で成長したことを話したいと思います。

私は入部当時、嫌なことからすぐ逃げ出そうとする性格でした。また人見知りで、人の前で話すことや初対面の人と話すことが苦手でした。

私は入部してインターアクトクラブで様々な活動に参加する中で、1つ気づいたことがありました。それは「人見知りなんて言っていられない」ということです。社会に出たらもちろんそうですが、そもそも春日インターのモットーは、目の前の人を笑顔にすることであり、その部員が、人見知りということを使い訳にして消極的になってしまえば誰のことも笑顔にすることができなと感じました。実際、初めてみんなのひみつきちへ行った時に、他の1年生や先輩方は生徒さんと楽しそうに会話をしていたのに私は少ししかお話をすることができませんでした。今思うと「人見知りで何を話せばいいかわからない」と自分に言い聞かせるようにして生徒さんから話しかけられるのをずっと待っているだけでした。自身の人見知りという性質を使い訳にして、ただ苦手なことから逃げているだけの自分がとても情けなく感じました。そこで初めて「このまま嫌なことから逃げ続ける人生は嫌だ」、「少しでも人見知りをどうにかしたい」と思い、先程活動紹介で話した、夏に開催されるソーシャルビジネスプロジェクトアワードというスピーチ大会に挑戦することにしました。大会に向けて練習し始めた頃は、逃げ出したくなるのが沢山ありました。一緒に出たメンバーの中では1番と言っているほどスピーチが下手で何度も心が折れましたし、何より本番失敗してしまうことへの不安がとても大きかったからです。それでも私が自信を持って本番を迎えることができたのはメンバーの存在があったからです。メンバーが練習を頑張っている姿を見ると、「やっぱり自分が決めたことは最後までやり遂げなきゃだめだ!」という気持ちになっていました。そしてずっと苦手だった対面での会話も少しずつではありますが挑戦するようになりました。みんなで同じ目標に向かって頑張った数ヶ月間は、ただスピーチ力が身についただけではなく、人間性が成長することのできた貴重な経験となりました。またスピーチの練習をする際、たくさんの先輩方や先生に聞いてもらっているうちに、人前で話すことに慣れていくことができました。今では大会に挑戦して本当に良かったと思っています。

私は、大会だけではなくインターアクトクラブの様々な活動に参加することで、私は入部当時より落ち着いて話すこと、初対面の人でも積極的に話しかけることができるようになり、また、嫌なことでもすぐに逃げ出そうとせず向き合うことが大切だと学びました。この1年で、ここまで成長できたのは春日インターに入部したからこそだと思います。約1ヶ月後には新一年生が入ってきます。私はこの部活をたくさんの新1年生に勧めたいと強く思いました。

私は、インターアクトクラブに入ってから様々なことが身につきました。

1つ目は、苦手なことにも挑戦する積極性が身についたことです。今までは、知らない人に自分から話しかけるのが苦手でしたが、はるひインターがイベントなどで行うチャリティーの物品販売、イース春日井という商業施設で定期的に行っている工作教室のイ

イベントなどの活動を通して、買い物にきてくれた方につなぐつの商品の説明をしたり、ひみつちの魅力などを説明する機会が増え、お客さんに理解してもらえた時や商品を実際を買ってくれた時には達成感のようなものを感じて勇気を出して話しかけてよかったと思えるようになりました。今では、まだ少し勇気を出さないといけないけれど自信を持って自分から話に行けるようになりました。

また、長いマスク生活の影響でマスクを外して笑顔で接することがとても苦手になってしまったけれど、地域のイベントなどで行っているダンスパフォーマンスをきっかけにできるようになりました。友達や見てくれた人に笑顔を褒めてもらうことが増え、今でも少し苦手意識が残っているけれど、見てくれている人も一緒に笑顔で踊ってくれるのを見て私も嬉しくなって意識しなくても笑顔でできるようになりました。ダンスパフォーマンスだけでなく笑顔は意思疎通の難しい人と交流する時には1番大切なことだと思うので、苦手なことに挑戦できてよかったと思います。このお陰でこの前のインターフェスでは、ブースに立ち寄って下さった人には笑顔で自信を持ってパラクティブツアーの説明ができました。この経験は自分にとってインターとして約一年間活動してきた集大成としてなったのでとても良い経験になりました。

そして二つ目に私は、インターアクトクラブに入って根気強く続けることの大切さと、意思疎通がたとえ完璧にできなくても笑顔は共通で相手に気持ちは伝わることを学びました。これは、私があるひインター全員が一斉にボランティアにいく全体活動の日である通常活動で病院に行った時に思ったことです。私は、その時、車椅子を利用された声を出すことはできるけれどはっきりとは聞き取るのが難しい方と一緒にになりました。初めはどのように接すればいいのか分からずすごく緊張していたけれど、笑顔で自分の名前を教えてください、ずっと視線を送ってくれたりしてくれたお陰で私も緊張が解けました。その日は、外にお散歩やトランプをしたのでたくさんコミュニケーションを取ることのできる機会でもとても貴重な体験ができました。特に利用している車椅子が普段私たちの目にする車椅子とは少し異なり、前方との距離感を掴むのにも苦労しましたが、曲がる時や段差がある時など、たくさん声をかけて一緒にお散歩することができたのでとても楽しかったです。

また、トランプでは指の位置と目の方向から自分の弾きたいカードを推測しないとイケなくてとても大変だったけれど、絶対に相手の言いたい事を一回で当てる！という強い意志を持って接していたため、回数を重ねていくにつれてだんだんと利用者さんの言いたいことがわかるようになって、何回も確認する必要がなくなってスムーズにいくようになりました。また、お互いに視線が合う事も増えその度に笑顔になってくれたのがすごく嬉しく心に残っています。最後まで諦めないで相手が伝えたいことは何か少しでも多くのヒントを頼りに推測していくことの大切さを学ぶことができました。

これからも活動に行けることを当たり前だと思わないで一回一回を大切に積極的に関与に参加していきたいです。

